

第7回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】 平成29年8月9日（水） 15時30分～16時35分
- 【場 所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】
1. 当院の概況等について
 2. 地域包括ケアへの取り組みについて
 3. 自由討議
- 【出席者】
- 熊谷 豊一 （医師会／可児医師会長）
伊藤 陽一郎（行政・県／可茂保健所長）
富田 成輝 （行政・市／可児市長）
稲原 士郎 （利用者／自治会長）
村瀬 勉 （利用者／自治会副会長）
島岡 孝司 （利用者／自治会副会長・代理）
岸田 喜彦 （院長）
山田 芳彰 （副院長）
奥村 明人 （事務部長）
福井 是子 （看護部長）

【概 要】

1. 当院の状況等について（パワーポイントを使用し、沿革、JCHO、概要、財務経営状況、地域包括ケアシステム、患者数について説明）

（利用者）

- ① 言葉の意味として、独立行政法人とはどういうものですか？地域だけのことなのか、全国の話なのか？一般企業で言えば、利益を出さないとやっていけないということなのか？

⇒ 全国的なことです。少しづれますが地域は地域として県の地方独立行政法人があります。本来は公務員がすべき業務を、公務員でなくてもやれるということで行う仕事です。私達の身分は「みなし公務員」で公務員に近いということで、管轄は国です。独立行政法人なので省庁は直接の命令系統は無いのですが、厚生労働省の管轄にあります。建物も土地も国のものです。

（利用者）

- ② 可児市から補助金を受けて運営されていますが、年間5,000万円も出ているとなると、可児市民と他市町村の住民との待遇は同じですか？

⇒ 医療ですので、どこに住んでいるかとか、国籍が違ふとかは関係ありません。

2. 地域包括ケアへの取り組みについて（パワーポイントを使用し、地域包括支援センター、業務内容、担当地域について説明）

（行政・市）

① ご説明があったとおり、土田と帷子の2つお世話になっております。特に帷子については人口2万人、土田は9,000人以上いまして、高齢化率が土田が23%くらいで可児市内でも高いほうではない。一方、帷子は団地で40%を超えるくらい、平均でも30%を超えるくらいなので、帷子のみなさんは帷子地区で包括支援センターを是非開いて欲しいという声が高くて高いですが、まずはこちらでお世話になって、人数の加減とかありますので、これから相談していこうと思います。まずは、可児とうのう病院にお礼とそれから帷子はニーズが高くて大変ご尽力おかけします。国が施設へ入る介護は非常に税金がかかるので、また病院も入ると大変かかるので、地域で預かって欲しいという制度にしましたので、これからますますニーズは高まると思います。高齢者の方々に伺うと、やはり病院へ行きたい介護施設に入りたい、在宅で行きたいという方は半々です。本当は在宅希望の方が多いと思うのですが、家族に迷惑がかかるという理由で施設へというのが多いので、生の数字は多分、介護の関係はできれば住み慣れた所で施設に入るような介護をして欲しい、医療についてもそんなに重い病気であれば時々医者に来てもらって住み慣れた家で最期を迎えたいというところが本音なのではないかと思えます。一方で、国も非常に税金がかかるため、特に今、国民一人当たり860万だったか借金があるということで、経費を減らしたいという両方の理由から医療、在宅医療、在宅介護、地域で身のまわりのゴミ出しとかを助ける仕組みを、特に10年後、団塊の世代の方が今年70歳で昭和22年、23年生まれの方が80歳になられる頃にそのニーズは更に高まるので、10年後までには絶対にそういう仕組みを作っておかないと、高齢者の方は安心して暮らしていけないということになるので、医師会長にも大変御尽力をいただいておりますが、可児とうのう病院、医師会、介護の皆さん、薬剤師、治療、医療に関わる皆さんと連携しながら作って行きたいと思えます。

やはり、その中で地域の皆さんがちょっとしたゴミ出しを手伝ったりとか、見回り、ちょっと新聞が溜まっている変な状況等が続いて大変なことにならないようにするとか、サロンみたいなのをやって集まって、元気にやっているかとかそういう仕組みを、昔の自治会とは違う意味で助け合う新しい形でやっていきたい。今後は高齢者をいかに支えあうかという新しい地域の活動が大事になってくると思うので、地域にとっての新しいニーズが出てきたということで、これからも協力を、その中心になるのが可児とうのう病院、医師会はもちろんですので、よろしくお願ひします。

⇒ 土田の高齢化率の話ですが、土田地区の高齢化率が今年の4月時点で男女合わせると20%を切っています。女性は20%以上ですけど。

(医師会)

② 先ほどお話がありましたが、どんどん在宅医療、在宅介護が進んでまいります。それについて、在宅は結構な話しですが、それには人員が充実していないと、とてもじゃない。医師会で訪問看護ステーションを立ち上げています。その中でも訪問看護ステーションに勤める看護師の確保に困っています。そのために看護学校を作って、看護師を養成していますが、卒業した学生は自分たちのところへ来るわけではない。看護師になる人も少ないです。そういう意味で在宅、在宅といわれるけど、在宅というものは本当に人員が必要なことなので、先ほども説明がありましたが、可児とうのう病院が訪問看護ステーションや包括ケアについても、人が揃っているのかが心配です。

⇒ ありがとうございます。今、おっしゃられたとおりで、人のやりくりが一番問題になっておりますので、診療科の話、復活もそうですが、医療を担う方が揃わないということが一番の問題です。

3. 自由討議

(利用者)

① 昔の東濃病院だった頃から、可児とうのう病院に変わって産婦人科がなくなってしまったけど、可児市民は困っているのではないですか？

⇒ 意図的に無くしたわけではないのですが、この地域に限らず、10数年前には全国的に医療崩壊と言われるくらい、特に産婦人科がいろいろな理由で医師の数が減り、お産が出来るところが減りました。これは回復するにはなかなか困難です。もちろんやっていただけの方がいらっしゃれば再開したいのですが、まずは医師がいないということ。産婦人科に限らず、私は小児科を何とかしないといけないとお話しましたが、これと同様です。

(行政・市)

⇒ 可児市は岐阜や大垣などの都会に比べたら少ないですが2施設あって、可児市で生まれる子どもの数の病床数はあります。可児市で生みたい人が、数字上で、可児市で産みたいのに産婦人科が無いから産めないということは無いです。市内

の2病院でカバーしています。現実には実家に戻って産んだり、多治見の県病院へ行く方もみえますし、数字上も統計上も確保できるだけの、喜んでよいのか悲しんでよいのか産まれる子どもの数自体が少ないので数字上は確保していますし、そういう声もありません。

(行政・県)

② 災害医療のことで気になることがありまして、可児地域は美濃加茂地域に比べて人口が1.5~1.6倍くらいですが、災害時に可児地域で医療の中心となるのが可児とうのう病院になっていただかないと困るのですが、災害時の体制はどのようにされているか教えてください。可児市の医療計画が、まだ策定中ということ伺っていますが、可児市と病院とがどのような体制になっているのか、策定中ということなかなか話せないかもしれませんが・・・軽傷は医師会の先生方が診られるかもしれませんが、重傷の方の受け入れについて教えてください。

⇒ 当然、可児市内では当院がそういった役目を担わないといけないと思っております。まだ具体的なその辺りのことはともかくとして、7年前から地元の自治体の方々にも参加していただいて老健も合同で広域の災害訓練は行っています。ただ、どこまでそれを広げるかということになるのですが、住民の方にも参加していただいて、そういった方向性は見据えて行っています。可児市全体という話になると、私たちだけではどうということではできませんが、医師会の中でもグループに分かれておりまして、今後、全体で煮詰めていくということになると思います。また、患者の受け入れについては、受けれる範囲内になると思いますし、災害の規模にもよると思われます。拠点は、この辺りは木沢記念病院になると思いますので、サブというか当院ができることをやらせていただくということになると思います。市内の4病院も、その状況によってはベッドをすべて使わせていただかないといけないという状況になるかも知れませんが、医師会のほうもそういう感じで考えていらっしゃると思います。

(行政・市)

⇒ 可児市の防災担当と可児医師会で話を進めています。現在策定中ということしか言えません。

(利用者)

③ 先ほど市長から包括支援の話がございましたが、私は自治会が立ち上げています栄町サロンの会長をやっておりまして、発足から11年あまり経ちます。お話を聞いていますと、病気にかかられた方への支援が重点になっている気がします。高齢者への介護予防が大前提にないと、どんどんこういう方が増えていく気がします。私たちは自前で昼食を用意して「おしゃべり会」というのを催しています。

どうしても支援のお金が足りないという話になります。市長がせっかくいらっしやっているので、高齢者の介護予防に更に力点をおいていただいて、ご支援いただけたらというお願いでございます。

(行政・市)

⇒ 認知症予防とか体操とかはやっていますが、病気にならない、介護にならないというのが1番ですので今後も進めていきますが、去年の7月から、そういうことをしてくださるグループについては施設の整備費や運営費の補助を出すようにしましたので、十分ではないですが、できるだけ充実させていきたいと思っておりますので、またご意見をいただきたいと思います。

(終了 16 : 35)